

については、NPO や KES 認証取得企業などが連携して実施する地域社会貢献事業に積極的に参加している。京都市内の環境団体などが環境をテーマにした中小企業の CSR (企業の社会的責任) 事業を検討するプロジェクトを進めており、KES 認証取得企業などと連携した小学校での出張教室を企画し取り組んでいる。

4) 取り組みの課題など

従業員が家族の一員であり、職住一体の組織であるため、役割分担が難しい一面がある。環境改善目標が、電力使用量の削減の場合、規模の小さい企業では地球温暖化への貢献はあまり期待できない。したがって、今後は環境教育・啓発活動などのプラス指向の環境影響項目に注力したい。

(2) 日本電気化学株

日本電気化学株は、社是を「和楽・積極」とし、近隣河川の美化推進活動への参加および工場の花壇整備や植樹などを通して地域社会への貢献活動を実施している (表 4)。2005 年度の環境改善目標は、従来の減らすマイナス活動から増やすプラス活動も実施している。KES ステップ 2 環境マネジメントシステムを導入して 5 年目を迎えた同社の取り組みは、京都議定書発効の 1 周年記念イベントの際に京都市表彰式で特別賞の「京都環境賞」を受賞した。もちろん ISO9001 は認証取得済みである。

1) KES 取り組みの概要

KES 認証取得時から取り組んでいる電力、コピー用紙などの削減目標も維持管理しながら、工場ごとに盛りだくさんの活動に取り組んでいる。2005 年度の改善目標は次の通りである。

- ①不良製品の削減：山科工場 20%削減、京都工場 15%削減、加悦工場 20%削減を目標に掲げ、具体的には、目標管理グラフ作成、作業標準見直し、品質委員会での問題改善・QC (品質管理) 発表など。
- ②ノー残業デーの実施：全社で月 1 回の残業のない日を設定し、作業改善による生産効率の向上を目指す。
- ③水使用量の削減：設備更新や有効稼働などを図り、水使用量の 2%削減を目指す。
- ④最大電力値の目標値を定め使用量削減：デマンド計を設置して警報が鳴るとエアコンの稼働制限、室温管理の徹底など。
- ⑤産業・一般廃棄物の 2%削減：分別管理の徹底、設備更新、薬液再利用や薬

液入替周期の見直しなど。

⑥周辺の環境美化活動の実施：毎月一度全員参加で工場周辺の道路の清掃活動実施。

⑦グリーン購入の推進：文具類を中心にエコ製品の購入を推進、購入率 60%以上を目指す。

⑧環境標示の全社統一：「紙類の分別」「産廃・一般廃棄物の分別」など 16 項目の標示デザインを作成し、380 ヶ所の標示を統一。

2) 取り組みの経緯

全国的に大手企業や地方自治体を中心とした ISO14001 の認証取得が進み、グリーン調達動きが広がりつつあるなか、環境意識の高い同社の経営層も ISO14001 の導入を模索していた。ちょうどその頃、理解しやすく導入コストの低い KES がタイミングよく地元京都で生まれたことが契機となった。

3) 取り組みの成果と意義

社外不良製品の削減およびノー残業デーの取り組みが未達成となったほかは、初期の改善目標を達成することができた。環境美化活動の工場周辺の清掃は身近な社会奉仕として定着した。グリーン購入は、主として文具類のエコ製品の購入が目標の 60%を大きく上回った。

また、会社の認証取得により社員全員の環境意識が高まり、社内だけでなく家庭でも環境に配慮したライフスタイルを心がけるようになっていく。初年度の認証取得の効果は特に大きく、電力・産業廃棄物の削減やゴミ分別の徹底などにより 824 万円の削減を達成した。

4) 取り組みの課題など

RoHS 指令禁止物質の鉛、六価クロムやカドミウムなど有害物質を含有しない製品の開発に注力し、規制化学物質フリー製品の生産体制は整うも、お客様の要望ですべてを切り替えるところまで進まない。今後は、お客様にも規制化学物質フリー製品の提供を勧めて、完全切り替えを目指す。2006 年度の改善目標として

表 4 日本電気化学株の会社概要

最高経営責任者	代表取締役 小林 剛一
創業	昭和 20 年 4 月
資本金	1 億円
従業員	210 名
所在地	本社・山科工場 京都市山科区西野後藤町 18
事業内容	電子部品・デバイス製造業
URL	http://www.ndkgk.co.jp/
登録日	2002 年 2 月
KES 登録番号	KES ステップ 2 (KES2 - 0014)